

島根県初記録となるヒラズゲンセイ（コウチュウ目ツチハンミョウ科）の記録

皆木 宏明*

First Reported Occurrence of *Synhoria maxillosa* (Fabricius) in Shimane Prefecture

Kohmei Minagi *

ヒラズゲンセイ *Synhoria maxillosa* は、コウチュウ目ツチハンミョウ科に属し、成虫の大きさは約30mm、真っ赤な体とクワガタのような大アゴを有し、出現期間は5~8月とされる。幼虫は本州ではキムネクマバチ *Xylocopa appendiculata* (ハチ目ミツバチ科) の巣に寄生する特異な習性をもつ昆虫である(杉浦・郷原, 1996)。

元来南方系の種類だが、近年国内で分布を拡大させており、従来の分布域である九州や四国南部から分布を北上させ、2000年代には近畿地方でも各地で確認されるようになった(初宿, 2008)。

中国地方へは2006年に岡山県で初確認された後、次第に分布を西側に拡大し、2017年には広島県と鳥取県で相次いで確認されている(田淵, 2018; 奥島, 2020)。今回、島根県で初記録となるヒラズゲンセイが確認されたので報告する。

確認場所は島根県出雲市塩冶町にある、のびのび広場いすむ保育園の園庭で2022年6月13日の朝に職員が園庭に出たところ、地面にいた本種の生体1個体を発見した(図)。見慣れない体色の昆虫だったため、園で観察できるよう捕獲したが、後日種類を調べてみると珍しい種類らしいと知り、6月15日に島根県立三瓶自然館へ電話連絡とメールで画像を送信頂き、筆者が本種と確認、同日生体を譲り受けた。

園庭や建物には、キムネクマバチが営巣利用するような樹木や材は見られず、採集後も数日は盛んに飛翔行動を繰り返していたことから、敷地外から飛んできた可能性が高いと思われる。譲り受けた個体は、水も含め何も摂食ことはなく、発見されてから18日後の7月1日に死亡した。既存の知見でも後食せず、成虫の

寿命は20日前後とされており(吉松, 1998; 1999)、採集された個体は羽化後まだ若い個体であったと思われた。なお、採集した個体は死亡後に標本化し、島根県立三瓶自然館で収蔵している。

発見日: 2022年6月13日

発見個体: ヒラズゲンセイ(生体) 1♂

体長28mm

発見場所: 島根県出雲市塩冶町 のびのび広場いすむ保育園(園長: 下垣祥子)

発見者: 吉田亜美(保育園の職員)

発見状況: 本種が園庭の地面にとまっていたところを職員が発見。

本報告にあたり、本種発見の情報提供及び快く採集個体を提供頂いた、のびのび広場いすむ保育園の下垣園長はじめ職員の皆様にこの場を借りて深謝いたします。



図 採集したヒラズゲンセイ♂

* 島根県立三瓶自然館、〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根 1121-8

The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8 Tane, Sanbe-cho, Ohda, Shimane 694-0003, Japan

引 用 文 献

奥島雄一(2020)広島県におけるヒラズゲンセイの記録(コウチュウ目, ツチハンミョウ科). 倉敷市立自然史博物館研究報告35号33-34

初宿成彦(2008)ヒラズゲンセイの温暖化による北上と生活史. 昆虫と自然43(12) 9-12.

杉浦直人・郷原匡史(1996)キムネクマバチの天敵, ヒラズゲンセイの生活史. インセクタリウム, 238-242.

田淵彰彦(2017)鳥取県鳥取市でヒラズゲンセイを採集. 月刊むし563, 50-51

吉松靖峯(1998)ヒラズゲンセイの生活史に関する新知見Ⅰ. 蛾化および羽化にいたる後期発育各期について. げんせい, (72): 19-20.

吉松靖峯(1999)ヒラズゲンセイの生活史に関する新知見Ⅲ. 後期発育の観察. 特に夏期における擬蛹の存在について. げんせい, (74): 38-42.